

3つの戒めがそろいました。どれも自分の力ではできないことです。問いを見つけるのも答えを出すのも、疑うのも前提を問うのも気づきの事柄です。気づかしめるような、自分を越えた働きが自分に届いていることに気づかせることが学ぶべき最大のことです。このようなことを前回申し上げました。

こうした教育における中学校教員の役割は重大です。教員が教壇に立っただけで、生徒は教わる気になり、分かった気になろうとし、前提に乗っかろうとします。小学校まではそれでよいです。しかし自ら生涯学び続ける人間を育てるという観点からすれば、中学校の教員がそうした生徒のあり方に無自覚に教壇に立てば生徒の成長を阻害するものになります。中学校の教員は生徒が次第にどこまでも分からない対象、他者、自己に自分で魂を向け変えて行く手立てを講ずる必要があると思います。それは同時に中学校の教員が **teacher** から **mentor** になるということです。

一年間ありがとうございました。良いお年をお迎えください。